

2024

Kyoto City University of Arts

入学者選拔要項

令和6年度 [2024年度]

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目次

| | |
|--|----|
| 第1 大学の教育・研究理念及び教育・研究目的と三つのポリシー | 1 |
| 1 教育・研究理念 | 1 |
| 2 教育・研究目的と三つのポリシー等 | 2 |
| (1) 美術学部 | 2 |
| (2) 音楽学部 | 3 |
| 第2 一般入試 | 6 |
| 1 募集人員 | 6 |
| 2 出願資格 | 6 |
| 3 出願期間 | 7 |
| 4 入学者選抜方法及び試験日程 | 7 |
| (1) 美術学部 | 7 |
| (2) 音楽学部 | 9 |
| 第3 社会人特別選抜（音楽学部音楽学専攻のみの募集） | 14 |
| 1 募集人員 | 14 |
| 2 出願資格 | 14 |
| 3 入学者選抜方法 | 14 |
| 4 出願期間及び試験日程 | 14 |
| 第4 障害等のある入学志願者との事前相談について | 14 |
| 第5 学生募集要項等について | 15 |
| 1 令和6年度学生募集要項の公表予定日 | 15 |
| 2 大学案内等の資料請求方法 | 15 |
| (1) 大学のホームページから請求する場合 | 15 |
| (2) 本学での配布 | 16 |
| 第6 令和7年度（2025年度）大学入学者選抜について（予告） | 16 |
| 1 令和7年度大学入学共通テストの教科・科目について | 16 |
| 2 旧教育課程履修者に対する令和7年度大学入学共通テストにおける経過措置 | 17 |
| 第7 キャンパスの全面移転について | 17 |
| 1 キャンパス移転について | 17 |
| 2 新キャンパスへのアクセス | 17 |

第1 大学の教育・研究理念及び教育・研究目的と三つのポリシー

1 教育・研究理念

21世紀は、あらゆる人間と自然が多様性をもって地球の上に共存しうる新たな文明社会を構築することが求められる時代です。そうしたなかで、芸術が果たす役割はますます大きなものになっています。なぜなら芸術は、太古以来、そこに培われた多様な技術と知恵をもって、人間と人間、人間と自然を創造的に結びつけてきたからです。

本学は、こうした芸術の普遍的意義を担う人材を育成するため、教育・研究理念に以下の三つの柱を建てています。

(1) 本学独自の伝統をふまえ、芸術の教育研究を「創造活動」として推進すること

芸術の教育研究はそれ自体がひとつの「創造活動」でなければなりません。建学以来、本学はたえず人間の創造性という原点にたち、社会や文化全体に貢献しうる芸術の研究教育の理想を追求してきました。自由で豊かな発想とたしかな基礎力の育成を重視し、専門性の深化と同時に分野を横断する交流を促進する本学の理念は、日本の高等芸術教育に新しい展望を切り開くものでもありました。

それはまた、実技と理論を有機的に結びつけ、教育・研究の場をたえず柔軟で開かれた「創造の現場」として展開していく本学独自の校風を支えています。

(2) 少数精鋭の高度な教育体制を維持・展開させること

芸術創造の技術と精神は、適切な規模と設備をそなえた創造的環境のなかでこそ養われます。本学の特色は、美術と音楽の各専門分野で活躍する芸術家・研究者・教育者による少数精鋭の高度な研究教育環境にあります。

それは、教員と学生相互の親密で豊かなコミュニケーションを支え、学生自身の自己発見・自己啓発の機会を最大限に保証するとともに、分野を横断する活発な交流を促しています。

(3) 地域社会と連携しつつ、文化首都・京都の特質を活かした国際的な芸術文化の交流拠点となること

日本の芸術文化を育んだ文化首都・京都は、豊かな伝統文化・伝統産業が存在するとともに、先進的な学術研究や産業が活発に展開する国際的な文化交流の中心地でもあります。

本学は、この京都の文化的土壌に根ざしながら、芸術を広く地域社会に発信し、学術・産業・生活文化の諸分野に創造的な視点と活力をもたらすこと、そして世界の多様な芸術文化が交流しあう国際的な芸術創造と研究の拠点となることをめざします。

2 教育・研究目的と三つのポリシー等

(1) 美術学部

－教育・研究目的－

美術学部は、国際的な芸術文化の都である京都の文化的・人的資源を生かし、独創的で多様な研究を背景に、専門的かつ横断的な教育を通して、優れた芸術家をはじめ独創的な人材を生み出し、もって社会に貢献することを目的とします。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

美術学部は、次のような学生を求めています。

- ・芸術文化に対して幅広い興味、強い好奇心を持っている学生
- ・表現に対する強い意欲を持っている学生
- ・自ら課題を見出し、解決しようとする意欲を持っている学生
- ・基礎的な学力や造形力、柔軟な思考力を持っている学生

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

美術学部は、以下の考え方にに基づき、カリキュラムを編成し、実施します。

- ・専門性の深化と専攻を横断する教育課程による本学独自の開かれた「創造の現場」を通して、幅広い視野と専門的な知識を習得すること。
- ・実技教育とともに学科教育も重視することで、表現力に加え、新たな芸術を生み出す自由で豊かな発想力、思考力を身につけること。
- ・少人数による密度の高い教育課程の中で、個々のテーマに合わせて課題を設定し、自ら学ぶ能力を養うこと。

◆ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

美術学部は、卒業時まで達成すべき目標を以下のとおりとします。

- ・芸術に関わる幅広い視野と、専門的な知識の修得
- ・柔軟な思考力と独自の発想力の修得
- ・自己の主題を実現する表現手法の修得

－入学前に身につけてほしい力－

美術学部は、以下のような能力を入学までに身につけることを期待します。

- ・自分を取り巻く世界に対する想像力と観察力
- ・高等学校卒業までに学習する基礎的な知識・技能
- ・基礎的な論述能力（総合芸術学科）
- ・以上をもとに答えが一つに定まらない問題に、自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力

ー入学試験の基本的な考え方・方針ー

美術学部は、アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)に適した学生を受け入れるため、以下の試験を課しています。

- ・基礎的な学力を評価するため、大学入学共通テストを課します。
- ・基礎的な造形力や柔軟な思考力などを評価するため、個別試験(描写・色彩・立体・小論文)を課します。

○個別試験の評価の観点

◎描 写：与えられた対象物を条件に従って構成し、的確に観察・把握し、描写表現する能力(鉛筆描写力)

◎色 彩：与えられたテーマを条件に従って発想・構想し、的確に色彩表現する能力

◎立 体：与えられたテーマを条件に従って発想・構成し、的確に立体表現する能力

◎小論文：与えられた文書等を的確に理解し、それをもとに思考したことを論述する能力

- ・多様な能力を評価するため、本学の個別試験と大学入学共通テストの成績を総合して選抜を行います。

(2) 音楽学部

ー教育・研究目的ー

音楽学部は、個性を尊重し創造性を育む専門的な音楽芸術の教育研究により、幅広い教養を併せ持つ優れた音楽家や研究者となりうる人材を育成することを目的とします。

◆アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

音楽学部は、次のような学生を求めています。

- ・音楽芸術の専門教育を受けるに足る基礎的技術と知識、強い学習意欲を持つ学生
- ・個性と芸術的創造力にあふれる学生

◆カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

音楽学部は、少人数教育の利点を活かした密度の高い指導を通じて、学生が専門分野における技術と知識を学び、感性を養うとともに、あらゆる芸術の土台となる幅広い教養と、次の力を身につけることを目指し、カリキュラムを編成し、実施します。

- ・実演分野においては、楽器、声を操る上での基礎的な身体技法及びそれらを自由に操る知的応用力
- ・創作分野においては、作曲上必要となる基礎的な楽音の取扱い方と知的応用力、またその記譜力
- ・学術分野においては、教養教育にも重点を置いた教育課程によって培われる、問題を把握する基礎的な思考力、情報リテラシー能力及び情報発信能力

◆ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

音楽学部は、卒業時まで達成すべき目標を以下のとおりとします。

- ・実演、創作、学術の各分野における、音楽人として相応しい音楽的もしくは学術的基礎力、応用力の獲得
- ・幅広い教養を有し、それらを社会に対して創造的に発信し、芸術文化に寄与できる能力の修得

ー入学前に身につけてほしいカー

音楽学部の各専攻では、以下のような能力を入学までに身につけることを期待します。

■作曲専攻

- ・和声法及び対位法の基礎能力
- ・それらを使って、音楽を構成できる能力
- ・高度の作曲法へ進むための、読譜力、理解力、知的好奇心

■指揮専攻

- ・指揮法、いわゆるバトンテクニックの習熟度よりも、音楽家としての基礎力の習熟度を重視します。
- ・具体的には、

◎聴音、視唱等のソルフェージュの基礎能力の向上

◎和声法の基礎能力

の2点を重視します。

加えて、ピアノまたは他の楽器、声楽での演奏を通して音楽的な表現が出来るように、演奏面での習熟も期待します。

■ピアノ専攻

- ・基礎的な読譜・初見能力の習得
- ・音楽の語法、形式、様式(スタイル)に対する理解と実践
- ・基礎的な練習曲、演奏技術(メカニズム)の理解と習得
- ・バロック・古典・ロマン・近現代作品など多様なレパートリー構築への準備

■弦楽専攻

- ・基礎的な読譜能力および演奏技術の習得
- ・音階、練習曲、協奏曲の学習と実践
- ・バロック・古典・ロマン・近現代の多様な作品の演奏への準備

■管・打楽専攻

- ・基礎的な楽器演奏技術
- ・基礎的な読譜能力及び、様々な時代様式の楽曲に対する基礎的理解とその表現技術

■声楽専攻

- ・基礎的な歌唱技術
- ・聴音、視唱等のソルフェージュの基礎能力（特にコールユーブンゲンは重要な課題の一つなので、習得しておくこと）

■音楽学専攻

音楽に対する関心に加えて総合的な俯瞰能力を有する者を求めます。それに当たって以下に掲げる基礎的な学力が受入の際の評価の対象となります。

- ・高等学校の教育課程の教科・科目の履修により培われる論理的思考能力
- ・高等学校の教育課程の教科・科目で習得した内容を活用する能力
- ・国語・外国語を用いたコミュニケーションならびに自己表現の能力

ー入学試験の基本的な考え方・方針ー

音楽学部は、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に適した学生を受け入れるため、以下の試験を課しています。

【作曲、指揮、ピアノ、弦楽、管・打楽、声楽専攻】

- ・本学での専門教育を受けるに足る基礎的な学力を評価するため、大学入学共通テスト（国語、外国語等）を課します。
- ・本学での専門教育を受けるに足る専攻ごとの技術や知識を評価するため、第一次試験において各専攻別に課題を課します。
- ・本学での専門教育を受けるに足る幅広い音楽的素養を評価するため、第二次試験（音楽通論、聴音書取、新曲視唱、副科ピアノ演奏等）を課します。
- ・以上の試験の成績を総合的に判断し、最終合否判定を行います。

【音楽学専攻】

- ・本学での音楽学の専門教育を受けるに足る基礎的な学力を評価するため、大学入学共通テスト（国語、外国語等）を課します（社会人特別選抜を除く）。
- ・第一次試験では、本学での音楽学の専門教育を受けるに足る語学力を評価するとともに、学術的研究に必要な着眼力、問題提起能力、課題解決に向けた発想力、論理的思考力及び文章構成力を、学生募集要項の発表と同時に公開する課題に対する事前提出物によって測ります。
- ・第二次試験では、音楽に対する学術的研究を実践する上で必要となる着眼力、問題提起能力、課題解決に向けた発想力、論理的思考力、プレゼンテーションや討論などのコミュニケーション能力を測るために、主に事前提出物で論じた内容に関する口頭試問を実施します。
- ・以上の試験の成績を総合的に判断し、最終合否判定を行います。

第2 一般入試

1 募集人員（美術学部 135 名・音楽学部 65 名）

| 学部 | 学科 | 専攻 | 募集人員 |
|------|--------|-----------------------------------|------|
| 美術学部 | 美術科 | 日本画専攻、油画専攻、彫刻専攻、版画専攻、構想設計専攻 | 70 名 |
| | デザイン科 | 総合デザイン専攻、デザイン B 専攻 | 30 名 |
| | 工芸科 | 陶磁器専攻、漆工専攻、染織専攻 | 30 名 |
| | 総合芸術学科 | 総合芸術学専攻 | 5 名 |
| 音楽学部 | 音楽学科 | 作曲専攻 | 4 名 |
| | | 指揮専攻 | |
| | | ピアノ専攻 | 14 名 |
| | | 弦楽専攻 | 14 名 |
| | | 管・打楽専攻 | 16 名 |
| | | 声楽専攻 | 14 名 |
| | | 音楽学専攻（募集人員 3 名には、社会人特別選抜の募集人員を含む） | 3 名 |

2 出願資格

本学に出願できる者は、次のいずれかに該当する者で、令和 6 年度大学入学共通テストにおいて本学が指定する教科・科目を全て受験した者とします。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和 6 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）及び令和 6 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (3) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者及び令和 6 年 3 月 31 日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和 6 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和 6 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣が指定した者（昭和 23 年文部省告示第 47 号）
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則第 8 条第 1 項に規定する認定試験合格者（旧大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）第 8 条第 1 項に規定する資格検定合格者を含む。）及び令和 6 年 3 月 31 日までに合格見込みの者で、令和 6 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者
- (8) その他相当の年齢に達し、学長が高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

注 出願資格(8)により出願しようとする者は、出願資格認定審査の手続を要するため、令和 5 年 8 月 31 日（木）まで（必着）に連携推進課入試担当へ以下の書類を提出してください。（郵送可）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・京都市立芸術大学入学資格認定申請書（様式は連携推進課入試担当に電話で請求してください。） ・出身校の調査書 ・出身校の学則等（修業年限やカリキュラム等の確認できるもの） ・出身校の卒業（見込）証明書 |
|---|

3 出願期間

令和6年1月22日(月)から2月2日(金)まで

4 入学者選抜方法及び試験日程

(1) 美術学部

ア 大学入学共通テストで受験を要する教科等

大学入学共通テストにおいて受験しなければならない教科・科目及び配点は次のとおりです。必要な教科のうち1教科でも欠席した場合は受験を認めませんので、受験科目を十分確認のうえ、出願してください。

| 学科 | 教科 | 科目 | 配点 | |
|---------|------------------|---|------|---------------------------------------|
| 美術科・工芸科 | 国語 | 「国語」 | 200点 | 4教科4科目 又は5科目 合計600点を 500点に換算 |
| | 地理歴史 公民 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・ 経済」「倫理、政治・経済」から1科目選択 | 100点 | |
| | 数学 理科 | 「数学I」「数学I・数学A」「物理」「化学」「生 物」「地学」から1科目選択 又は「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基 礎」から2科目選択 | 100点 | |
| | 外国語 | 「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓 国語」から1科目選択 | 200点 | |
| デザイン科 | 国語 | 「国語」 | 200点 | 5教科5科目 又は6科目 合計700点 |
| | 地理歴史 公民 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・ 経済」「倫理、政治・経済」から1科目選択 | 100点 | |
| | 数学 理科 | 「数学I」「数学I・数学A」から1科目選択 「物理」「化学」「生物」「地学」から1科目選択 又は「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基 礎」から2科目選択 | 100点 | |
| | 外国語 | 「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓 国語」から1科目選択 | 200点 | |
| 総合芸術学科 | 国語 | 「国語」 | 200点 | 4教科4科目 又は5科目 合計600点 |
| | 地理歴史 公民 理科 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・ 経済」「倫理、政治・経済」「物理」「化学」「生物」 「地学」から1科目選択 又は「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基 礎」から2科目選択 | 100点 | |
| | 数学 | 「数学I」「数学I・数学A」から1科目選択 | 100点 | |
| | 外国語 | 「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓 国語」から1科目選択 | 200点 | |

注1 外国語のうち「英語」を選択受験した場合の配点は、リーディング（100点満点）を140点満点に、リスニング（100点満点）を60点満点に換算し、合計得点を200点満点とします。
 なお、リスニングテストを受験しなかった場合は失格となります。ただし、リスニングテスト免除者については、リーディングテストの成績を200点満点に換算し利用します。

2 「地理歴史、公民」及び「理科②」での2科目受験者については、第1解答科目の得点を採用します。

3 「理科①」と「理科②」を受験した場合は、「理科①（2科目の合計得点）」と「理科②」のうち高得点の科目を「理科」の得点として採用します。

注：「理科①」…物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 とする。

「理科②」…物理、化学、生物、地学 とする。

4 美術科及び工芸科において「数学」と「理科」を受験した場合は、「数学」と「理科」のうち高得点の1教科の得点を採用します。

5 総合芸術学科において「地理歴史、公民」と「理科」を受験した場合は、「地理歴史、公民」と「理科」のうち高得点の1教科の得点を採用します。

6 過年度（令和5年度以前）の成績を利用することはできません。

イ 個別試験の内容

| 試験科目 | 試験時間 | 配点 | 美術科 | デザイン科 | 工芸科 | 総合芸術学科 |
|-----------|------|------|----------|-------|-----|----------|
| 描 写（鉛筆描写） | 4時間 | 250点 | ● | ● | ● | ● |
| 色 彩（色彩表現） | 3時間 | 250点 | ● | ● | ● | |
| 立 体（立体表現） | 3時間 | 250点 | ● | ● | ● | |
| 小論文（論述試験） | 2時間 | 200点 | | | | ● |
| 合 計 | | | 3科目 750点 | | | 2科目 450点 |

ウ 個別試験の日程

分離分割方式の前期日程により本学において実施します。

| 試験科目 | 試験日 | 備考 |
|-----------|--------------|--|
| 描 写（鉛筆描写） | 令和6年2月25日（日） | 描写試験終了後、休憩をはさみ、美術科・デザイン科・工芸科は色彩試験を、総合芸術学科は小論文試験を実施します。 |
| 色 彩（色彩表現） | | |
| 小論文（論述試験） | | |
| 立 体（立体表現） | 令和6年2月26日（月） | |

エ 合否判定の方法

- ・美術科：個別試験3科目の合計成績（750点満点）と大学入学共通テストの成績（500点満点）を総合して行います。
- ・デザイン科：個別試験3科目の合計成績（750点満点）と大学入学共通テストの成績（700点満点）を総合して行います。
- ・工芸科：個別試験3科目の合計成績（750点満点）と大学入学共通テストの成績（500点満点）を総合して行います。
- ・総合芸術学科：個別試験2科目の合計成績（450点満点）と大学入学共通テストの成績（600点満点）を総合して行います。

オ 最終合格発表日（予定）

令和6年3月6日（水）

(2) 音楽学部

ア 大学入学共通テストで受験を要する教科等

大学入学共通テストにおいて受験しなければならない教科・科目及び配点は次のとおりです。必要な教科のうち1教科でも欠席した場合は受験を認めませんので、受験科目を十分確認のうえ、出願してください。

| 専攻 | 教科 | 科目 | 配点 | |
|---------------------------------|------------------|---|--------------------|------------------|
| 作曲専攻 指揮専攻 | 国語 | 「国語」 | 200点 | 3教科3科目 合計600点 |
| | 地理歴史 公民 数学 | 「世界史B」「日本史B」「地理B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理、政治・経済」「数学I」「数 学I・数学A」「数学II」「数学II・ 数学B」から1科目選択 | 素点100点を 200点に換算 | |
| | 外国語 | 「英語」「ドイツ語」「フランス語」 から1科目選択 | 200点 | |
| ピアノ専攻 弦楽専攻 管・打楽専攻 声楽専攻 | 国語 | 「国語」 | 200点 | 2教科2科目 合計400点 |
| | 外国語 | 「英語」「ドイツ語」「フランス語」 から1科目選択 | 200点 | |
| 音楽学専攻 | 国語 | 「国語」 | 200点 | 3教科3科目 合計600点 |
| | 地理歴史 公民 数学 | 「世界史B」「日本史B」「地理B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理、政治・経済」「数学I」「数 学I・数学A」「数学II」「数学II・ 数学B」から1科目選択 | 素点100点を 200点に換算 | |
| | 外国語 | 「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」から1科目選択 | 200点 | |

注1 外国語のうち「英語」を選択受験した場合の配点は、リーディング（100点満点）を140点満点に、リスニング（100点満点）を60点満点に換算し、合計得点を200点満点とします。なお、リスニングテストを受験しなかった場合は失格となります。ただし、リスニングテスト免除者については、リーディングテストの成績を200点満点に換算し利用します。

- 2 作曲専攻、指揮専攻、音楽学専攻における「地理歴史、公民」での2科目受験者については、第1解答科目の得点を採用します。
- 3 作曲専攻、指揮専攻、音楽学専攻において「地理歴史、公民」と「数学」を受験した場合は、「地理歴史、公民」と「数学」のうち高得点の1教科の得点を採用します。
- 4 過年度（令和5年度以前）の成績を利用することはできません。

イ 個別試験の内容

受験者全員に第一次試験を行い、第一次試験合格者に対して、第二次試験を行います。なお、課題曲等の詳細については、令和5年11月1日(水)に本学ホームページ(<https://www.kcuu.ac.jp>)で公表予定の学生募集要項上で発表します。

【作曲、指揮、ピアノ、弦楽、管・打楽、声楽専攻の第一次試験(配点900点)】

| 専攻 | 試験内容 |
|-------------------------|---|
| 作曲専攻 | <ul style="list-style-type: none"> • 和声法(試験時間各2時間30分) <ul style="list-style-type: none"> バス課題:与えられたバスに和声をつけ、4声体とすること。 ソプラノ課題:与えられたソプラノに和声をつけ、4声体とすること。 両課題とも記譜は次のa又はbのいずれかを選択すること。 <ul style="list-style-type: none"> a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。 b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。 実施記譜例(a、bによる記譜)は11ページを参照のこと。 • 二声対位法(試験時間2時間) <ul style="list-style-type: none"> 与えられた全音符の定旋律に対旋律をつくること。対旋律は、2分音符、4分音符、8分音符と移勢(シンコペーション)を含む、いわゆる自由(華麗)対旋律によるものとする。 解答は、次の1~6の6通りが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> 1 定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。 2 定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。 3 定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。 4 定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。 5 定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。 6 定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。 なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。 記譜は次のa又はbのいずれかを選択すること。 <ul style="list-style-type: none"> a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。 b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。 実施例(bによる記譜)は11ページを参照のこと。 • 作曲(試験時間4時間30分) <ul style="list-style-type: none"> 与えられた素材により器楽曲を作曲すること。 • 作品提出 <ul style="list-style-type: none"> 自作品を1曲以上、試験当日に提出すること。なお、提出された作品は返却しないので、コピー譜を提出すること。 • 面接 |
| 指揮専攻 | <ul style="list-style-type: none"> • 和声法(試験時間3時間) <ul style="list-style-type: none"> 与えられたバスとソプラノに和声をつけ、4声体とすること。なお、記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。 • 指定された管弦楽曲の指揮(演奏は二台ピアノによるものとする。) • 当日提示する楽曲による総譜視奏(スコアリーダー) • 既に修得している楽器(ピアノ、弦楽器、管打楽器、ハープのうちのいずれか1つ)又は声楽の演奏 <ul style="list-style-type: none"> 楽器は各自持参すること。ただし、コントラバス、ハープについては、楽器を持参できない場合は本学で用意する。マリimbaについては、本学で用意する楽器を使用すること。 なお、声楽を除き全て無伴奏とする。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も、第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。 • 面接 |
| ピアノ専攻 弦楽専攻 管・打楽専攻 | 課題曲の演奏 |
| 声楽専攻 | 課題曲及び自由曲の演奏 |

【音楽学専攻の第一次試験（配点 400 点）】

| 専攻 | 試験内容 |
|-------|--|
| 音楽学専攻 | <ul style="list-style-type: none"> 英語（試験時間 1 時間 40 分、300 点） 小論文的な要素を含む。英和、和英辞書持込可、電子辞書の持込可。ただし、通信機能の無いものに限る。 事前提出物（100 点） 与えられた課題に関する研究レポート（2,000 字程度） |

作曲専攻 実施例

◆第一次試験における和声法の実施記譜例

* 課題 {過去の出題（ソプラノ課題）より冒頭 2 小節}



* 記譜 a による実施例



* 記譜 b による実施例



◆第一次試験における二声対位法の実施例

* 記譜 b による実施例



【作曲、指揮、ピアノ、弦楽、管・打楽、声楽専攻の第二次試験（配点 400 点）】

| 専攻 | 音楽通論 | 聴音書取 (旋律・和声) | 新曲視唱 | コールユーブンゲン視唱 (全訳書第1巻より当日1曲指定) | 副科ピアノ 演奏(※) | ピアノ 新曲視奏 |
|--------|------|-----------------|------|---------------------------------|----------------|-------------|
| 作曲専攻 | ● | ● | ● | | ● | |
| 指揮専攻 | ● | ● | ● | | ● | |
| ピアノ専攻 | ● | ● | ● | | | ● |
| 弦楽専攻 | ● | ● | ● | | ● | |
| 管・打楽専攻 | ● | ● | ● | | ● | |
| 声楽専攻 | ● | ● | ● | ● | ● | |

【音楽学専攻の第二次試験（配点 900 点）】

| 専攻 | 口頭試問（事前提出物に基づいたプレゼンテーションと質疑応答） |
|-------|--------------------------------|
| 音楽学専攻 | ● |

※ 副科ピアノ課題曲について（全て暗譜で演奏すること。反復はしない。）

①は全専攻必須。②は作曲及び指揮専攻は(A)(B)の中から、弦楽、管・打楽及び声楽専攻は(A)(B)(C)の中から1つを選択し、演奏すること。

副科ピアノ演奏は事前の動画提出による映像審査として実施します。動画の提出方法等の詳細については、令和5年11月1日（水）に公表予定の学生募集要項上で発表します。

| | |
|---|---|
| ① | <p>音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を事前に指定する（令和6年2月中旬頃）。</p> <p>ハ長調 ト長調 ニ長調 イ長調 ヘ長調 変ロ長調 変ホ長調 イ短調 ホ短調 ロ短調 嬰へ短調 ニ短調 ト短調 ハ短調</p> <p>速度は♩=76M.M.以上。ハノン第39番による。</p> <p>長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。</p> <p>短調の音階は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。</p> |
| ② | <p>(A) J. S. Bach：平均律クラヴィーア曲集 第2巻より 第15番 ト長調 BWV884 プレリューードの繰り返しはしない。</p> <p>(B) J. S. Bach：2声のインヴェンション BWV772～786より1曲又はシンフォニア（3声のインヴェンション） BWV787～801より1曲を自由選択。 ただし、インヴェンション第10番ト長調、シンフォニア第5番変ホ長調、シンフォニア第6番ホ長調を除く。</p> <p>(C) J. S. Bach：アンナ・マグダレーナ・バッハのためのクラヴィーア小曲集より メヌエット ハ短調 BWV Anh.121 繰り返しはしない。</p> |

ウ 個別試験の日程

分離分割方式の後期日程により本学において実施します。

令和6年3月12日（火）から17日（日）まで

| | 試験日 | 作曲専攻 | 指揮専攻 | ピアノ専攻 | 弦楽専攻 | 管・打楽専攻 | 声楽専攻 | 音楽学専攻 |
|-------|----------|--------------------|------|-------|------|--------|------|-------|
| 第一次試験 | 3月12日（火） | ● | ● | ● | | ● | | ● |
| | 3月13日（水） | ● | ● | ● | | ● | | |
| | 3月14日（木） | ● | | | ● | ● | ● | |
| | 3月15日（金） | | | | ● | ● | ● | |
| | 3月16日（土） | 第一次試験合格者発表 | | | | | | |
| 第二次試験 | 3月17日（日） | 第一次試験合格者のみ第二次試験を実施 | | | | | | |

注 管・打楽専攻の第一次試験は楽器によって下記の試験日とします。なお、出願状況によって日程を変更する可能性があります。

12・13日：オーボエ、クラリネット、ファゴット、トロンボーン、バス・トロンボーン、ユーフォニアム

14・15日：フルート、サクソフォン、ホルン、トランペット、チューバ、打楽器

エ 合否判定の方法

【作曲、指揮、ピアノ、弦楽、管・打楽、声楽専攻】

- ・第一次試験の合否判定は、第一次試験の成績のみにより行います。
- ・最終合否判定は、第一次試験、第二次試験及び大学入学共通テストの成績を総合的に判断して行います。
- ・最終合否判定に際しては、弦楽専攻、管・打楽専攻及び声楽専攻については、カリキュラム実施上の理由から、入学者間の数的バランスを考慮する場合があります。

【音楽学専攻】

- ・第一次試験の合否判定は、第一次試験及び大学入学共通テストの成績に基づいて行います。
- ・最終合否判定は、第一次試験、大学入学共通テストの成績も考慮しつつ、第二次試験の結果に基づき、判断します。

オ 最終合格発表日（予定）

令和6年3月20日（水・祝）

第3 社会人特別選抜（音楽学部音楽学専攻のみの募集）

1 募集人員

| 学部 | 学科 | 専攻 | 募集人員 |
|------|------|-------|------|
| 音楽学部 | 音楽学科 | 音楽学専攻 | 若干名 |

※ 社会人特別選抜の募集人員は、一般入試の音楽学専攻の募集人員3名に含まれます。

2 出願資格

社会人特別選抜試験に出願できる者は、一般入試における出願資格（1）～（8）（本要項6ページに記載）のいずれかに該当する者で、令和6年4月1日までに満23歳に達し、社会人（就職の有無は問わない。）の経験を4年以上有する者とします。ただし、学校（定時制、夜間及び通信制の学校は除く。）の通学期間は、社会人の経験期間に含めません。

注 出願資格（8）により出願しようとする者は、出願資格認定審査の手続を要するため、令和5年12月22日（金）まで（必着）に連携推進課入試担当へ以下の書類を提出してください。（郵送可）

- ・京都市立芸術大学入学資格認定申請書（様式は連携推進課入試担当に電話で請求してください。）
- ・出身校の学則等（修業年限やカリキュラム等の確認できるもの）
- ・出身校の調査書
- ・出身校の卒業（見込）証明書

3 入学者選抜方法

大学入学共通テストの受験は免除し、本学が行う個別試験は一般入試と同じ内容で実施します。

4 出願期間及び試験日程

出願期間、個別試験の日程及び最終合格発表日は一般入試と同じです。

第4 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学への入学志願者で、障害等（視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱・発達障害・その他）がある人は、受験上及び修学上の配慮を必要とすることがありますので、出願前にあらかじめ連携推進課入試担当に申し出てください。詳細は令和5年11月1日（水）に本学ホームページで公表予定の学生募集要項で確認してください。

ただし、体幹及び両上肢の機能障害が著しく、大学入学共通テストにおいて「代筆解答」の特別措置を申請する志願者が本学に出願する場合は、大学入学共通テスト出願以前のできるだけ早い時期に連携推進課入試担当に申し出てください。

第5 学生募集要項等について

1 令和6年度学生募集要項の公表予定日

令和5年11月1日（水）に本学ホームページで公表予定です（※）。

なお、インターネット出願を行うため、冊子（印刷物）は発行しません。

※ 美術学部及び音楽学部の最新の入試情報は本学ホームページでご確認ください。

【本学ホームページ】

【美術学部の入試情報】

【音楽学部の入試情報】



2 大学案内等の資料請求方法

(1) 大学のホームページから請求する場合

本学ホームページの資料請求ページ（<https://www.kcua.ac.jp/request3/>）からテレメールやモバっちょを利用して大学案内等の資料を請求することができます。請求方法等の詳細については、移動後のページ内の指示に従ってください。

注 テレメールは株式会社フロムページが、モバっちょは大学情報センター株式会社が運営する資料請求サービスです。

ア テレメールで請求する場合

下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスし、請求を希望する資料請求番号を入力してください。

| | | | |
|---------------------------|--------|---|--|
| インターネット (パソコン、スマートフォン) | 共通アドレス | https://telemail.jp | |
| | QRコード | <ul style="list-style-type: none"> ・対応する機種で読み取れます。 ・資料請求番号の入力は不要です。 | |

| 資料名 | 資料請求番号 | 料金（送料含む） | 発送時期 |
|-----------------|--------|----------|----------|
| 大学案内 | 564772 | 250 円 | 発送中 |
| 入学者選抜要項 | 584772 | 180 円 | 令和5年7月下旬 |
| 入学者選抜要項 + 大学案内 | 564752 | 250 円 | |
| 令和5年度美術学部入学試験問題 | 584782 | 180 円 | 発送中 |
| 令和5年度音楽学部入学試験問題 | 584792 | 180 円 | |

注1 資料は通常、発送日のおおむね3～5日後にお届けできます。お届け先地域や郵便事情によってはお届けに1週間ほど要する場合があります。


2 16時00分までの受付は当日発送、16時00分以降の受付は翌日発送となります。ただし、発送開始日前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日に一斉に発送します。

3 随時発送の資料が1週間以上（予約受付の資料は発送開始日から1週間以上）経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。

- 4 資料の料金は、お届けする資料に同封の支払い方法をご確認の上、資料到着後2週間以内に表示料金をお支払いください。なお、支払い手数料として、「コンビニ支払い」「LINE Pay 請求書支払い」「au Pay請求書払い」は118円、「携帯キャリア払い」「クレジットカード払い」「PayPay」は30円が別途必要です。また、複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。
- 5 資料請求終了時および受付確認メール内で告知される10桁の「受付番号」は、資料到着まで保管しておいてください。

イ モバっちょで請求する場合

請求方法の詳細については、下記のいずれかの方法でモバっちょにアクセスし、移動後のページ内の指示に従ってください。

| | | |
|-----------------|--|---|
| スマートフォン 携帯電話 | QRコード  | <ul style="list-style-type: none"> ・対応する機種で読み取れます。 ・資料請求代金を携帯電話の通信料と一緒に支払えます。 ・携帯電話の機種、携帯電話会社との契約状況により利用できない場合があります。 |
| パソコン | アドレス https://djc-mb.jp/kcua3/ | クレジットカード決済とコンビニエンスストアでの後払いにより支払えます。 |

注1 請求から2~5日後に資料が届きます。ただし、受付時間、地域、配達事情によって到着が遅れる場合もあります。

2 支払い時、資料ごとに次の手数料が必要となります。

携帯電話払い、スマートフォン払い及びクレジットカード決済：50円

コンビニエンスストアでの後払い：126円

(2) 本学での配布

本学〈入試担当事務室〉にて配付しております。ただし、平日の夜間、土曜日、日曜日及び祝日については守衛所で配布しています。

注 キャンパス移転に伴い、令和5年10月以降は配布場所が変わりますので、ご注意ください。

【請求方法に関する問合せ先】

| | |
|---------------|--|
| テレメールを利用する場合 | 株式会社fromページ テレメールカスタマーセンター TEL：050-8601-0102（9:30~18:00） |
| モバっちょを利用する場合 | 大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター TEL：050-3540-5005（平日 10:00~18:00） |
| 本学での配布を希望する場合 | 京都市立芸術大学 連携推進課 入試担当 E-mail：nyushi@kcua.ac.jp |

第6 令和7年度（2025年度）大学入学者選抜について（予告）

1 令和7年度大学入学共通テストの教科・科目について

高等学校等における新学習指導要領への移行を受け、大学入学共通テストで受験を要する教科等を本学ホームページ（<https://www.kcua.ac.jp/admission/>）でお知らせしています。

予告内容について今後変更がある場合は、本学ホームページもしくは入学者選抜要項等にてお知らせします。

2 旧教育課程履修者に対する令和7年度大学入学共通テストにおける経過措置

旧教育課程履修者（高等学校（中等教育学校の後期課程並びに特別支援学校の高等部を含む。）に令和4年4月に入学し、令和7年3月に卒業見込みの者以外の者）に対する令和7年度大学入学共通テストに関する経過措置を本学ホームページ（<https://www.kcua.ac.jp/admission/>）でお知らせしています。なお、本学の個別試験について経過措置はありません。

第7 キャンパスの全面移転について

1 キャンパス移転について

前身である京都府画学校の創設から143年目を迎える令和5年、京都芸大は更なる飛躍を期して、10月に京都の玄関口である京都駅東部エリアに移転します。京都駅から徒歩圏内となる新キャンパスは、通学はもちろん、文化芸術都市・京都が誇る美術館、コンサートホールなどの文化施設や寺社仏閣へのアクセスにも優れています。

新しい校舎には、オーケストラやオペラ、アンサンブルなど多様な編成に対応できるよう、最適な音響空間を確保したサイズの異なる複数の音楽ホールや、専攻別のアトリエに加えて金属や木材などさまざまな素材の加工が可能な「共有工房」を整備するなど、学生が持てる力を存分に発揮できる環境を用意します。

京都芸大新キャンパスは、文化芸術都市・京都の新たな拠点となり、これまでの歴史を受け継ぎながら、教育・研究の一層の充実に取り組んでいきます。

2 新キャンパスへのアクセス

【住所】

京都市下京区下之町 57-1

【交通機関】

JR・地下鉄烏丸線・近鉄線「京都」駅からキャンパス（A棟）まで徒歩約6分

京阪「七条」駅からキャンパス（I棟）まで徒歩6分

【周辺地図】



●本学の受験に関する問合せ先（令和5年7月現在）

京都市立芸術大学 連携推進課 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6

TEL：075-334-2238

E-mail：nyushi@kcua.ac.jp

公式 HP：https://www.kcua.ac.jp

※キャンパス移転に伴い、令和5年10月以降、問合せ先が変わります。キャンパス移転後の問合せ先については本学ホームページをご確認ください。